

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 23 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24730658

研究課題名(和文) 一般教育の導入が大学教育の形成に与えた影響に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Fundamental Research on Influence that Introduction of the General Education gave for the Formation of the University Education

研究代表者

井上 美香子 (Inoue, Mikako)

九州大学・学内共同利用施設等・助教

研究者番号：30567326

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：一般教育導入後、関東・近畿・中国及び四国・九州・東北及び北海道・名古屋及び東海の6つの地区に設置された各地区一般教育研究委員会と大学基準協会第二次一般教育研究委員会についてはこれまで、大学史研究上その存在が紹介されてきた。しかし、これらの委員会の関係史料の残存状況をはじめ、委員会での議論の内容等その具体的な活動の詳細は明らかではなかった。本研究により、各地区一般教育研究委員会のおよび第二次一般教育研究委員会の詳細な活動内容とその議論の動向が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)： This study focuses on the activities of the General Education Associations in Kanto, Kinki, China and Shikoku and Kyushu, Tohoku and Hokkaido, Nagoya and Tokai, and, Second General Education and Research Committee of the University Accreditation Association. According to this study, trends of the discussion it became clear with the detailed activities of the General Education Associations in Kanto, Kinki, China and Shikoku and Kyushu, Tohoku and Hokkaido, Nagoya and Tokai, and, Second General Education and Research Committee of the University Accreditation Association.

研究分野：教育学

キーワード：高等教育史 大学史 一般教育 教養教育 新制大学史 大学教育 大学基準協会

1. 研究開始当初の背景

新制大学の大きな特徴は、一般教育の導入によって“大学教育”という概念がもちこまれた点であるという事は、既に周知のとおりである。GHQ/SCAP 史料の公開の他、近年の大学アーカイブスの充実と諸大学の沿革史編纂の蓄積により、一般教育の導入過程の詳細が明らかとなりつつある。

しかし、一般教育導入後に、各科目の内容や教授法をめぐり、どのような方法が模索されたのか、そして何が問題となりどのようなことが課題とされたのか、その具体的な内容は殆ど明らかとされてこなかった。一般教育の導入により“大学教育”という概念がもちこまれたことをふまえれば、一般教育をめぐりどのような模索がなされたのかその過程を追っていくことが、“大学教育”の形成過程を明らかにする一つの鍵となると考えられる。

そこで本研究では、一般教育導入後の科目内容や教授法について議論を重ね研究をすすめた地区大学一般教育研究会と大学基準協会第二次一般教育研究委員会に着目した。地区大学一般教育研究会とは、教育指導者講習会 (IFEL) 開催後、関東地区 (1950 年)・近畿地区 (1951 年)・中国及び四国地区 (1952 年)・九州地区 (1952 年)・東北及び北海道地区 (1952 年)・名古屋及び東海地区 (1954 年) に設置された大学関係者を構成員とする委員会である (カッコ内は発足した年を示す)。この地区大学一般教育研究会と 1952 年に発足した大学基準協会第二次一般教育研究委員会については、これまでその存在が紹介されてきた。しかし、これらの委員会について、沿革史等で触れられる程度にとどまり、史料の残存状況や委員会での具体的な議論の内容などは殆ど明らかとされてこなかった。

そこで、地区大学一般教育研究会と第二次一般教育研究委員会に着目し、一般教育導入後の活動を追うことで“大学教育”の形成過程を明らかにしようと考えたのが本研究の課題設定の背景であった。

2. 研究の目的

一般教育の導入と実施をめぐりどのような方法が模索されたのか、何が課題とされたのかについて、地区大学一般教育研究会及び第二次一般教育研究委員会における議論とその活動から丁寧に紐解くことを本研究の目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、以下の方法で史料を収集・分

析した。

- (1) 大学アーカイブスにて関東地区・近畿地区・中国及び四国地区・九州地区・東北及び北海道地区・名古屋及び東海地区の各地区大学一般教育研究会関係史料の所蔵状況について予備調査を実施し、所蔵が確認できた九州大学大学文書館・広島大学文書館・名古屋大学大学文書資料室等にて史料調査と収集を行った。また、京都大学附属図書館、北海道大学附属図書館、東京大学附属図書館において所蔵状況について調査を実施し、不足史料の補足をおこなった。史料収集後は、議題の仮目録を作成し議事内容を整理した。
- (2) 第二次一般教育研究委員会について、大学基準協会にて調査を実施した。なお、調査の過程で、第二次一般教育研究委員会の他に第一次一般教育研究委員会の調査も実施する必要がでてきた。そのため、当初の計画にはなかった第一次一般教育研究委員会の調査も実施し史料を収集した。なお、史料収集後は、同様に議事内容を整理した。
- (3) 地区大学一般教育研究会および第二次一般教育研究委員会の活動を広く把握するため、教育政策研究所教育図書館と国立国会図書館にて調査を実施し雑誌記事等の史料を収集した。
- (4) 第二次一般教育研究委員会の調査の過程で、第一次一般教育研究委員会についても検討する必要がでてきた。第一次一般教育研究委員会における研究内容の一部は、3つの報告書に纏められ刊行された。これらの報告書 - 『大学に於ける一般教育 - 一般教育研究委員会中間報告 -』(1949 年)、『大学に於ける一般教育研究委員会 - 一般教育研究委員会第二次中間報告』(1950 年)、『大学に於ける一般教育研究委員会 - 一般教育研究委員会報告』(1951 年) - を吟味検討し、第二次一般教育研究委員会へ積み残した課題を導き出した。

以上の作業を通して、各地区大学一般教育研究会および第二次一般教育研究委員会において各科目の内容や教授法をめぐり、どのような方法が模索されたのか、そして何が問題となりどのようなことが課題とされたのか、その具体的な内容から一般教育の導入が大学教育の形成に与えた影響を捉えようとした。

4. 研究成果

本研究の成果は、以下の通りである。

- (1) 関東地区・近畿地区・中国及び四国地区・九州地区・東北及び北海道地区・名古屋及び東海地区に設置された地区大学一般教育研究会の史料がどこにどの程度保存されているのか、その所蔵状況はこれまでほとんど整理されてはいなかった。そこで、本研究でははじめに、史料の残存状況とその所蔵について調査・整理を行った。その結果、九州地区大学一般教育研究会と名古屋及び東海地区大学一般教育研究会の史料が比較的まとまった形で残されていることが明らかとなった。本調査により、この2つの地区大学一般教育研究会の議論を追い丁寧に分析していくことで、一般教育の導入が大学教育に与えた影響について、今後長期的観点から考察することができることが分かった。
- (2) 関東地区・近畿地区・中国及び四国地区・九州地区・東北及び北海道地区・名古屋及び東海地区に設置された地区大学一般教育研究会での議題を整理しその仮目録を作成した。
- (3) 関東地区・近畿地区・中国及び四国地区・九州地区・東北及び北海道地区・名古屋及び東海地区大学一般教育研究会のうち、まとまった形で史料が残っていた九州地区大学一般教育研究会に着目し、同委員会の議論について考察を加えた。ここでは、1952年から1953年までの九州地区大学一般教育研究会の議論について検討した。1956年の大学設置基準の制定により「基礎教育科目」が導入された。この「基礎教育科目」導入の背景には、日本経営者団体連盟などが学力低下を改善するために専門教育の強化を要請したことが大きく影響していると指摘されてきた。本研究では、経済界が専門教育の強化を求める声明を発表するなか、大学の現場ではすでに「基礎教育科目」を導入するために大学基準の改訂を求める動きがあったことを指摘した。
- (4) 第二次一般教育研究委員会の調査の過程で、第一次一般教育研究委員会についても検討する必要がでてきた。第一次一般教育研究委員会における研究内容の一部が纏められた3つの報告書 - 『大学に於ける一般教育 - 一般教育研究委員会中間報告 - 』(1949年)、『大学に於ける一般教育研究委員会 - 一般教育研究委員会第二次中間報告 - 』(1950年)、『大学に於ける一般教育研究委員会 - 一般教育研究委員会報告 - 』(1951年) - を吟味検討した。本研究では、これら3つの報告書に掲載された、人文科学・社会科学・自然科学から成る一般教育関係科目の内容について吟味し3つの報告書について比較検討

を行った。その結果、人文科学・社会科学・自然科学関係科目共に、カリキュラムの編成方法や学生の学習意欲を刺激するためにどのような授業を工夫すればよいかなどの教授法についての言及が目立つようになる傾向があったことが分かった。ここから、掲げた理念の具現化に向けた具体的な検討というよりも、カリキュラム編成や教授法などの技術論へ委員会の関心が高まっていった点を指摘した。ここでは、第一次一般教育研究委員会が、第二次一般教育研究委員会へ積み残した課題を導き出した。

- (5) 第二次一般教育研究委員会の存在とその活動内容については、大学基準協会の沿革史で既に紹介されている。しかし、同委員会でのどのような議論がなされたのか、その具体的な内容については必ずしも明らかではなかった。そこで本研究でははじめに、第二次一般教育研究委員会に関する史料がどの程度残っているのかを把握するため調査を実施し史料を収集し議事内容を整理した。本調査により、第二次一般教育研究委員会については、第一次一般教育研究委員会と第三次一般教育研究委員会との関係において再検討する必要があることが明らかとなり、次なる課題としたい。

調査の結果、地区大学一般教育研究会の史料の残存状況が予想以上に芳しくなかった。しかし、名古屋及び東海地区大学一般教育研究会のほか、とりわけ九州地区大学一般教育研究会については多くの史料が残っていた。また、第二次一般教育研究委員会についても、前後に設置された第一次および第三次一般教育研究委員会との関係の中で考察する必要がでてきた。史料調査はほぼ完了しているので、今後も研究成果の発表につとめたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

井上美香子(2013)「九州・四国・中国(広島県、山口県)地区大学一般教育研究会における一般教育をめぐる議論についての一考察 - 第1回・第2回研究会(昭和27~28年)を通して - 」大学教育学会『大学教育学会誌』第35巻第2号、pp97-103

〔その他〕

井上美香子(2015)「新制大学の生態誌(6)-新制大学と戦争・平和〔序〕 - 」『月刊ニューズレター 現代の大学問題を視野に入れた教育史研究を求めて』第7号、pp22-24

井上美香子(2016)「新制大学の生態誌(12)-
新制大学と戦争・平和〔6〕-」『月刊ニュー
ズレター 現代の大学問題を視野に入れた教
育史研究を求めて』第13号、pp32-35

6. 研究組織

(1)研究代表者

井上 美香子 (INOUE Mikako)
九州大学百年史編集室 助教
研究者番号：30567326

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし